

学位研究 第18号 平成16年3月（研究ノート・資料）

[大学評価・学位授与機構 研究紀要]

専門学校修了を基礎資格とする学位取得申請者の
専攻外各科目の単位修得状況調査

— 平成13年度申請者について —

Results of Surveys of Credit Accumulation
for General Education Courses by Applicants in FY2001
who have Completed Their Studies at Special Training Colleges

八木 克道

YAGI Katsumichi

Research in Academic Degrees, No. 18 (March, 2004) [the essay/material]

The Journal on Academic Degrees of National Institution for Academic Degrees and University Evaluation

| | | |
|-----|---|-----|
| 1 | はじめに | 169 |
| 1.1 | 調査の概要 | 171 |
| 1.2 | 科目の分類方法 | 171 |
| 2 | 調査結果 | 172 |
| 2.1 | 申請者の分類 | 172 |
| 2.2 | 「専門科目」,「関連科目」(機構の分類による。)の単位修得の全般的な特徴 .. | 175 |
| 2.3 | 「専攻外科目」の修得単位数 | 177 |
| 2.4 | 「一般・教養科目」の総修得単位数 | 184 |
| 3 | まとめと考察 | 186 |
| | ABSTRACT | 191 |

専門学校修了を基礎資格とする学位取得申請者の 専攻外各科目の単位修得状況調査

— 平成13年度申請者について —

八木 克道*

1 はじめに

平成3年の大学設置基準の大綱化においては、大学の教育課程における専門科目、一般・教養科目等の分けをはずし、固定化した一般教育からの脱皮を目指した。大学審議会の「大学教育の改善について」の答申（平成3年2月8日）の際、“教養教育”の必要単位数の減少が起るのではとの危惧が議論されたが、「大学人の良識を信じて」との表明の後、大綱化がなされている。そして、一般・教養教育を重視する視点から、大学設置基準第19条第2項において「教育課程の編成に当たっては、大学は、学部等の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮しなければならない」と規定された。

大綱化に伴って各大学は組織及びカリキュラムの大幅な改革を行った。その一方で、一般・教養科目がなおざりにされているのではとの危惧の声も聞かれ、平成14年の中教審答申（平成14年2月21日）では、「各大学には、幅広い視野から物事を捉え、高い倫理性に裏打ちされた的確な判断を下すことができる人材の育成が一層強く期待されている。」「今後の学部教育は、教養教育と専門基礎教育とを中心に行うことが基本となり、各大学には教養教育の在り方を総合的に見直し、再構築することが強く求められる。」と述べられ、また、日本学術会議の教育体系の再構築特別委員会：21世紀の高等教育が直面する課題（平成14年4月4日）においても「現在求められている学習内容とは、単に個人の職業能力を高め、労働力としての市場性を高める知識・技術ばかりでなく、人間生活の内面を豊かにする幅広い文化的教養にいたる、広い範囲にわたっている。」と書かれ、一般・教養教育の必要性が強調されている。

大学評価・学位授与機構（以下、機構と表記する。）は、学位授与機構として平成3年に設置された。「生涯学習体系への移行、多様な高等教育機関の発展等の観点から、いわゆる単位累積加算制度を設けるとともに、大学や大学院と実質的に同程度の教育研究が行われている高等教育機関について、その修了者に対し、学士の称号を付与、学位の授与を行い得るようになる必要があると考えております。」という文部大臣の審議要請により大学審議会で審議がなされ、大学以外で学位を授与できる機関として機構が設置されたのである。しかし、単位累積加算制度そのままの形による学位授与は答申されず、「大学に一定期間在学した者や、現行制度上大学への編入学が認められている短期大学卒業者及び高等専門学校卒業者（以下、基礎資格取得者、また、在籍した教育機関を基礎資格校とよぶ。）が、そのまとまりのある履修の成果を基

* 大学評価・学位授与機構 学位審査研究部 教授

礎として、さらに大学の科目登録制またはコース登録制や短期大学の専攻科において一定の単位を体系的に履修し（以下、単位の積み上げ、また、修得した単位を積み上げ単位とよぶ。）、学位授与機関の定める要件を満たした場合に限って、学士の学位を授与することとすることが適当である。」とされた。同時に高等専門学校専攻科設置の提言もなされている。他省庁設置の大学校に関連した学位授与も答申されたが、これは本論の対象外である。以下ではもっぱら基礎資格取得後に単位を積み上げる学習者に対する学位授与についてのみ述べる。

機構の設置後、いろいろな形の教育改革がなされ、機構はそれぞれに適切に対応しながら、学位授与事業を行ってきた。現在の学位授与の理念や具体的申請要件、審査内容等については濱中の報告¹⁾があるので、詳細はそちらに譲る。本論と関係ある一般・教養教育については、上記大学設置基準第19条第2項の規定に基づき機構においても、「学位規則第6条第1項の規定に基づく学士の学位の授与に関する規程」の第3条第1項第2号において「単位の修得に当たっては、専攻に係る専門の学芸を体系的に履修するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮して履修すること」としている。

平成12年、機構に国立大学の教育・研究を評価する部門が付加され、大学評価・学位授与機構となったが、初年度からの大学評価実施テーマの一つとして「社会が、高度化・複雑化する中で、社会全体としても教養及び基礎的な学力の重要性が改めて指摘されており、大学における新たな教養教育の在り方を考慮した教育の推進が求められている。」という観点から、「全学テーマ別評価」で「教養教育」を取り上げている。大学設置基準の大綱化後、各大学が上記規定にどのように取り組んでいるかを評価するものであった。この評価の結果²⁾によると、国立大学では一般教育関連修得単位の卒業要件は、最低20単位最高82単位で、平均41単位である。

ここで、機構による学位授与において、教養教育に関しては具体的にどのような形で単位修得要件に反映させているかを見てみたい。機構においては申請者が申請する「専攻区分」を担当する専門委員会・専門部会（以下、委員会と表記する。）が、申請者の修得科目をそれぞれ定める専門性の強さによって、専門性の強い「専門科目」、専門と関連する「関連科目」、そしてそれ以外の「専攻外科目」に分類している。この分類は、科目を提供している教育機関の分類でなく、委員会の分類であることを注意しておく。これについては1.2節で触れる。専攻における体系的学習の審査は専攻区分ごとに定められている「専攻基準」に基づいて審査される。各専攻に共通な審査基準が「基本基準」である。「基本基準」において一般・教養教育と関連する規定は、「『関連科目』と『専攻外科目』の合計修得単位数が24単位以上であること」、「外国語の単位数が1単位以上であること」の2つである。

基礎資格校としては、大学（中退）、短期大学、高等専門学校が主なものであったが、平成10年に一定の条件を満たす専門学校修了者も大学編入学が認められ（学校教育法施行規則第82条の10の追加）、機構の学位授与事業においてもそのような専門学校修了者も基礎資格取得者として学位取得の道が開かれ（学位規則第6条第1項の一部改正）、平成11年4月期から申請受付を開始した。機構において、専門学校を基礎資格校と決定したときの学位審査会（平成10年11月）には「専門学校卒業者に対する学位授与に関する調査研究」（座長戸田修三日本私学振興・共済事業団理事長）の報告書（平成10年9月16日）が出されているが、そこでは次のような記述がある。

「専門学校の教育課程は、一般的に短期大学・高等専門学校に比していわゆる教養科目が少

ない傾向にあるが、当面は各申請者が基礎資格該当後の学修において補充することを期待することとし、今後、本制度における教養科目の位置づけについて、実際の単位申告状況を見ながら、一般的単位累積加算制度の調査・検討と合わせて、機構において引き続き検討することが適当である。」

専修学校のカリキュラムについては、専修学校設置基準で80%程度は専門教育科目またはこれに関連する授業科目にあてるという規定があったが、平成6年にこれは廃止されている。現在、専修学校設置基準の第8条第3項の規定では、「専門課程の授業科目の開設に当たっては、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮しなければならない」とされている。しかし、韓によれば³⁾、資格と結びついている分野（機構への申請者は殆どこれに該当する。）は別にして、学校間格差が大きく、単位制でなく学年制で、科目も時間数表示であり、保健体育や外国語のない課程も存在し、教養教育は自助努力とされている。また、公的資格取得に特化したカリキュラムを作る場合、認定を受けるために高いハードル（専門性の質の保証）があり、柔軟なカリキュラムでなく、資格試験対応教育に陥ることが指摘されている。また、韓は³⁾、文部省が昭和53年度に実施した「専修学校に関する実態調査」によると「専門科目」の割合が90%以上の学科は4割以上であり、80%以上の学科は8割に達していると述べている。

本稿は、基礎資格校のうちで、もっとも専門性に特化した教育をするであろうと想像される専門学校の修了者が、いわゆる4年制大学で一般・教養教育科目としてかつて分類されているような科目をどの程度修得して申請したのか、その実態を知るべく、機構への学位授与申請者が申請の際に提出された単位修得状況等申請書から、修得単位の科目分類を行った結果を述べたものである。

1.1 調査の概要

基礎資格を専門学校とする平成13年度の申請者232名について行った⁴⁾。専門学校修了者の受付開始から3年目にあたる年である。「専門科目」、「関連科目」、「専攻外科目」（平成13年度までは「その他科目」と呼ばれていたが、平成14年度以降に使われている「専攻外科目」の呼び名をここでも用いることにする。）別の単位修得状況を、機構の分類方式に従って委員会が判定を行った後の資料を基にして、各人の単位修得状況等申告書、その内訳表に書かれた科目を調べた。

なお、単位の積み上げにおいては、専攻科で学習する場合においても大学の単位を16単位以上含むことが要求されていたが、今回調査の対象とした平成13年度からは、その要件は廃止されている。

1.2 科目の分類方法

○科目の分類

まず、機構の行う学位授与審査の際に用いる分類に従って、各申請者の修得単位数を「専門科目」、「関連科目」、「専攻外科目」について総単位数と基礎資格校での修得単位数に分けて記録した。これは機構における専門委員会での判定結果をそのまま記録した。

次に一般・教養科目と思われる科目を申請書の全修得科目表から抜き出して記録した。抜き出しは単位修得科目名から、多くの大学において一般・教養科目として分類されていると思わ

れる科目名について行った。シラバス等を用いた分類をしていないので、微妙なところはシラバスまで用いた判定と異なる可能性があることをお断りしておきたい。抜き出しは全科目、すなわち、機構が分類した「専門科目」、「関連科目」、「専攻外科目」すべてから行った。このような抽出、分類をしなければならない理由は、得られた結果を大学等での一般・教養科目の修得単位数などと比較をしたいためで、機構の分類方式ではそれが困難であるからである。その理由は、「1 はじめに」でも述べたように、機構による分類は、科目提供教育機関の科目の位置づけと異なるからである。例えば、保健体育系の科目は、多くの専門学校においても共通一般科目として分類されているが、申請者によっては、健康関連の「専門科目」あるいは「関連科目」に分類して申請し、そのように判定されている場合もある。また、物理、化学の一般・教養科目も、理工学に関する科目として、「専門科目」、「関連科目」に分類されている専攻区分も存在する。基礎数学に相当する単なる統計学や、情報・コンピューター系の科目、例えばコンピューターリテラシーなどのパソコン入門科目も、統計学・情報科学に関する科目として「専門科目」あるいは「関連科目」に分類されている場合も多い。それらは通常の4年制の大学では、一般・教養科目として分類されているので、この調査では「専門科目」から移動させた。もちろん、医療情報学などのように〇〇情報学となっている科目は「専門科目」とし残し、移動させなかった。尤も、〇〇情報学として専門基礎科目としている場合でも、1年次に提供されている場合は、〇〇の専門に特化した内容はあまり期待出来ず、「専門科目」とは言いがたいであろうが、そこまでは立ち入らなかった。

引き抜いた科目は、人文・社会系科目、数学・自然系科目（統計を含む。）、国語、外国語科目、情報・コンピューター系科目、保健体育科目、「その他」の科目（「専門科目」、「関連科目」及び前6項目に属さない科目）の7項目に分類した。宗教系の専門学校における宗教教育（「聖書」、「天理教」など）、学校の特徴に根ざすもの（「赤十字概論」など）、地域に根ざすもの（「同和教育」など）は「その他」の科目に含めた。専門学校修了後、異なる専攻分野に編入学して履修、卒業した場合などでは、そこで修得した専門科目は「その他」の科目となる。ここで行った分類は、大学設置基準の大綱化後に各大学がカリキュラム改革を行い⁵⁾、それぞれの理念で新たに構築した一般・教養科目のパッケージ分類と異なる側面があるが、旧来の分類を踏襲した。それゆえ、単純に数学・自然系や人文社会系には分類できない4文字や6文字系の総合科目、放送大学等における上記分類には馴染まないある課題に特化した教養関連科目（たとえば、日本人口論、現代社会の学力、ビジネスマナーなど）と思われるものなどが入る。従って、「その他」の科目を多く履修した申請者は、中身の詳細は別としてその分だけ「幅広く学習した」と評価されうるが、逆に、「その他」の科目やそれ以外の6項目に分類された科目の修得が少ない申請者は、「一般・教養科目」の履修が少ないと評価されることになる。

2 調査結果

2.1 申請者の分類

申請者を専攻分野ごとに、専門学校終了後の学習歴で分類したのが、表2-1である。すでに濱中⁶⁾が報告しているとおり、申請者の多い専攻分野は看護学、保健衛生学分野に限られており、これまでの調査によって明らかにされた機構における学位取得者のグループの分類⁷⁾では

⑦看護，⑧保健衛生と分類される申請者が殆どである。5割が放射線技術科学，3割近くが看護学である。⑦，⑧の分類に属さない申請者は，栄養学が6名（3%弱）と5専攻区分各1名の5名にすぎない。

申請者の単位の積み上げは，表2-1に示す通り専攻科入学，科目等履修生，大学（編）入学等によって行うことになるが，そのうち6つの専攻区分とその総計について，その割合を示したのが，図2-1（a）である。看護，保健衛生系（2～5の棒グラフ，以下簡略化して（2～5）のように括弧で括って棒グラフの番号を示すことにする。）の専門学校の修学年限は3年以上が殆どであり，機構への学位授与申請に必要な積み上げは31単位以上と比較的少ないためであると思われるが，申請者の7割が基礎資格取得後の学修を科目等履修生として行っている。それに対して，看護学（図2-1（a）（1））と栄養学（同（6））では専攻科経由の割合が多い。看護学には2年制の専門学校修了者が4名おり，そのうち3名は1年制の専攻科に進学している。そのうち2名は異なる専門の大学も卒業しており，残りの1名は放送大学で単位を積み上げている。2年制の専門学校修了者の4名のうち，専攻科に在籍しなかった残りの1名は放送大学編入学—卒業生である。多様な学習歴があることがわかる。ここでは濱中の分類に従って，はじめの3名を3年制の専門学校修了者と区別せずに“専攻科経由”の申請者として取り扱った。その結果総計45名（19%）の申請者が短期大学の1年制の専攻科経由と分類された。専攻科経由の場合，申請者は未就労の若い学習者と思われる。短大卒業後の学習課程である専攻科では，今回調査対象としたような一般・教養科目を必須科目として提供しているとは考えにくいので，専攻科でのみ単位を積み上げた者の場合，一般・教養科目の積み上げ単位数が少ないことが予想される。

一方，すでにそれぞれの看護・保健衛生系分野の国家試験に合格して就労している者にとっては，専攻科に入学しての単位積み上げは困難なので，科目等履修生か，通信制の大学や放送大学入学の道しか残されていない。大学入学者は70名（30%）と多く，そのうち卒業も42名（18%）である。濱中によると⁸⁾ この年は他年に比して大学入学者の申請者が多いことが認められ，それは申請年度の丁度2年前に専門学校から大学編入学が認められ，初年度に多数の専門学校からの編入学者があったためではないかとされている。

学習歴の分類について述べる前に次の問題を指摘したい。最大の申請者数の専攻区分である放射線技術科学では，7割近くの79名が科目等履修生によって単位積み上げを行っている。放射線技術科学の場合，濱中⁹⁾ も指摘しているように，次のような特異な事情がある。79名の半数以上の50名が特定の1大学の科目等履修生として32単位を積み上げている（内4名は放送大学と合わせて単位の積み上げを行っている。）。同大学放射線技術科では，働きながら機構へ学位申請が出来る学習を提供する意図と思われるが，平成8年から社会人コースとして集中講義の形式で科目等履修生制度の科目を提供している。勤務に差し支えないように土曜日，日曜日を出来るだけ入れるように10月から翌年の9月にかけて，6～9日の日程を4回組み，総計29～31日の日程で講義等を行い，単位を認定する（同大学ウェブサイトより）。機構に提出されている同大学の発行する単位修得証明書も，機構の分類と同様に「専門科目」，「関連科目」，「その他科目」と分類されて，全ての申請者がほぼ同じ科目を32単位修得して申請している。

全科目等履修者109名から当該特定の1大学だけで単位積み上げを行った46名を除いた63名のうち，放送大学だけで単位積み上げを行った者は56名，他の大学だけで積み上げを行ったも

の2名、放送大学と重複して積み上げを行ったもの5名で、放送大学での学習が圧倒的に多い。一方、大学入学者70名のうち教養学部である放送大学入学（卒業も含む。）は55名（79%）である。彼らは結果的に、放送大学での科目等履修によって積み上げを行った者（56名）と総単位数は別として単位の修得内容は類似することになる。当該特定の1大学及び放送大学経由を括りだして纏めると図2-1（b）のようになる。図2-1（a）では多様な学習歴と思われるグラフも、図2-1（b）のグラフを見ると専攻科経由、放送大学経由、当該特定の1大学経由に大別されてしまうことになる。

放送大学以外の大学への入学者15名の場合、同じ専門の学科に進学したものは少なく、例えば基礎資格校の専門分野の看護学で申請していながら大学では国語・国文学を学んだ者、放射線技術科学を学んだ後大学で経営情報、社会情報、経済、教育学、法学などを学んだ者、理学

表2-1 申請者の学習歴（専門分野別分布）

| | 短期大学 | | 大学 科目等履修 | 高等高专 専攻科 | 大学 入学(卒業) | 総計 | 割合 |
|---------|---------|---------|-------------|-------------|--------------|-----|-------|
| | 専攻科(2年) | 専攻科(1年) | | | | | |
| 教育学 | 1 | | | | | 1 | 0.004 |
| 科学技術研究 | | | | | 1 | 1 | 0.004 |
| 看護学 | | 37 | 12 | | 17 (12) | 66 | 0.284 |
| 検査技術科学 | | | 10 | | 13 (9) | 23 | 0.099 |
| 放射線技術科学 | | 8 | 79 | | 29 (19) | 116 | 0.5 |
| 理学療法学 | | | 6 | | 7 (2) | 13 | 0.056 |
| 作業療法学 | | | 2 | | 1 | 3 | 0.013 |
| 栄養学 | 6 | | | | | 6 | 0.026 |
| 土木工学 | | | | 1 | | 1 | 0.004 |
| 建築工学 | | | | | 1 | 1 | 0.004 |
| 美術学 | | | | | 1 | 1 | 0.004 |
| 総計 | 7 | 45 | 109 | 1 | 70 (42) | 232 | |

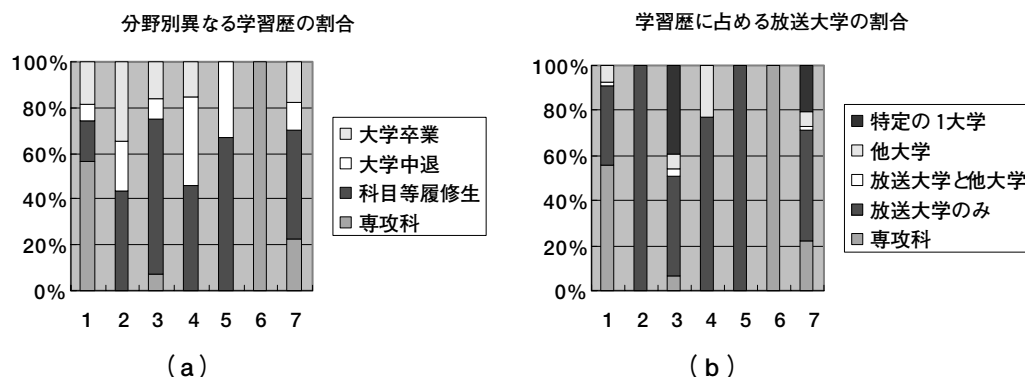


図2-1 (a) 専攻分野毎の異なる学習歴の割合, (b) 学習歴に占める放送大学の割合

1. 看護学, 2. 検査技術科学, 3. 放射線技術科学, 4. 理学療法学, 5. 作業療法学
6. 栄養学, 7. 総計

療法を学んだ後大学で情報工学を学んで卒業する者等多様な学習経路の申請者がいる。

以下の分析においては、申請者が1名のみの5つの専攻区分の学生を除いて図表を作成して検討を加えた。申請者が3名、6名と数の少ない区分については、参考程度の意味しかないであろうが、この種の調査は初めてなのであえて記載した。場合によっては、人文社会系、工学系の専攻区分をまとめて人文社会学、工学として加えた。

2.2 「専門科目」、「関連科目」（機構の分類による。）の単位修得の全般的な特徴

専門学校は、高等教育レベルの教育施設のなかで、最も職業資格と結び付いた教育機関である。そのため、機構が認定する「専門科目」の単位を基礎資格校で多数修得しており、各専攻基準の定める「専門科目」の修得要件は基礎資格校での学習でほぼ満たされている。

専門の周辺の領域を学ぶ「関連科目」については、機構の定める修得要件は専攻区分ごとに異なるが¹⁾、今回の調査対象者の属している専攻区分の場合は全て「4単位以上」となっている。図2-2は基礎資格校での「関連科目」の修得単位数を比較したものである。単位非修得の者、1～5単位、6～9単位、10単位以上それぞれ修得した者に分けて、専攻区分ごとにその割合を示した図である。検査技術科学（図2-2（2））、放射線技術科学（同（3））では、専門に特化したカリキュラムのためと思われるが、「関連科目」の単位非修得の者が6割を超えている。4単位に満たない申請者は、その後の学習で「関連科目」を学習しなければならないことになる。

次に、専攻区分ごとに「専門科目」、「関連科目」の単位修得状況を述べる。今回対象となった保健衛生学の4専攻区分について、積み上げ単位修得機関による「専門科目」、「関連科目」、「専攻外科目」の履修パターン（単位数でなく割合で示されている。）の違いについては既に濱中による詳細な報告があり⁶⁾、類似した結果となるが、基礎資格校での修得単位数との比較を含めて述べることにする。

○看護学

基礎資格校での「専門科目」修得単位数は平均67単位である。専門的教育を行う専攻科経由

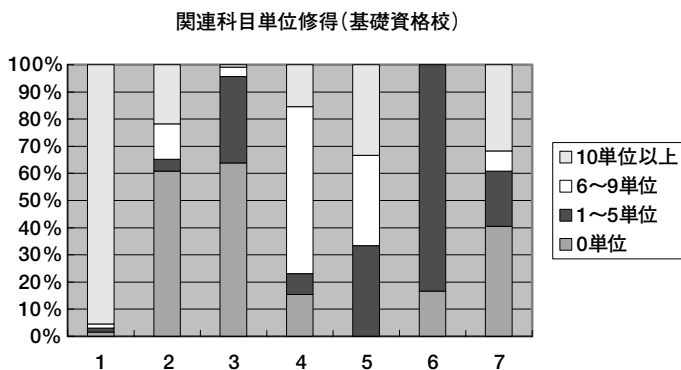


図2-2 専攻区分毎の基礎資格校での関連科目修得状況

（それぞれの単位数区分の単位修得者の割合を示す。）

1. 看護学
2. 検査技術科学
3. 放射線技術科学
4. 理学療法学
5. 作業療法学
6. 栄養学
7. 申請者全体

の申請者は、平均20単位以上の「専門科目」の単位積み上げを行っているが、科目等履修生、あるいは大学生として単位を積み上げた申請者は、2～7単位程度の積み上げに留まっている。「関連科目」については、図2-2（1）に示されているように、ほとんどの申請者が基礎資格校で10単位以上修得し、平均して21単位ほどになる。看護師として専門の看護学のほかに周辺の知識を多く必要としているという専攻区分の特徴を反映したものであろう。10単位に足りない単位修得の申請者は66名中3名である。「関連科目」の積み上げは平均して17単位ほどになる。学習歴別にみると、専攻科経由の申請者の方が、大学入学や科目等履修生に比べて積み上げ単位数は少ない。この違いは、「専門科目」の修得状況の違いほどではない。

○検査技術科学

基礎資格校において平均84単位の「専門科目」を学習している。「関連科目」の単位修得は平均すると看護学とは大きく異なり4単位であるが、両者を加えると看護学の場合と大きく変わらない。図2-2（2）に示すとおり、「関連科目」の修得単位数が10単位以上の申請者は5名（22%）で、非修得の申請者は14名（61%）である。この分野の専門学校では資格取得に必須な「専門科目」を集中的に開講して、周辺分野の講義が少ないことがわかる。この専攻区分では、申請者は全員放送大学での科目等履修生、入学、卒業として単位を積み上げている（図2-1（a））。濱中も指摘している通り⁶⁾、機構が指定する専門科目のうち専門性の比較的弱いB群が一般的な名称の科目（健康科学に関する科目、社会医学に関する科目、統計学・情報科学に関する科目など）であるため、放送大学でも、「専門科目」の単位積み上げが可能で、「専門科目」は平均して19単位積み上げている。これは「専門科目」の積み上げ単位数の少ない看護学の場合と異なる点である。「関連科目」の積み上げ単位数は平均して17単位（「専門科目」より少ない結果は濱中の結果と類似している。）で、申請段階では平均21単位と上昇している。

○放射線技術科学

基礎資格校での「専門科目」の修得単位は平均100単位にもなり、資格取得の専門教育にさらに特化している。専門の周辺科目と位置づけられている「関連科目」の平均修得単位数は1単位以下で、検査技術科学の場合とよりさらに少ない。図2-2（3）に示すように、「関連科目」の単位非修得の申請者は74名で全体の64%程度を占める。5単位以下の修得の申請者が95%以上となっている。科目等履修生、大学入学等による積み上げの申請者の「専門科目」の積み上げ単位数を平均すると15単位ほどであるが、当該特定の1大学で単位修得した申請者の積み上げ数は21単位なので、彼らを除くと平均11単位の積み上げとなる。

「関連科目」の積み上げ単位数は平均すると13単位程度であるが、既述の特定の1大学経由の申請者を除いて平均すると、「関連科目」は20単位以上の増（積み上げ単位数が「専門科目」のそのの倍程度になる結果は、濱中の結果⁶⁾（3倍近く）と比較される。）となって、ほぼ検査技術科学と同数である。申請者の半数に近い当該特定の1大学経由の申請者を除かないと、それ以外の学習者（放送大学での履修者が多数）の履修状況を捉えることが出来ないことがわかる。

○理学療法学

13名の申請者の中に、「専門科目」298単位修得の者が1名おり、その特異な学習者を除くと、基礎資格校での「専門科目」の平均修得単位数は107単位、平均積み上げ単位17を加えた総単位数では124単位となり、放射線技術科学の申請者とあまり変わらない結果となっている。「関連

科目」については、基礎資格校でも平均7単位ほど修得しており、平均10単位積み上げて総計17単位となっている。「専門科目」の積み上げ単位数が「関連科目」の倍程度となる関係（下記の作業療法学の場合も同じ。）は濱中の結果⁶⁾と大きく変わらない。

○作業療法学

作業療法学の申請者3名のうち2名は同じ専門学校の修了者である。サンプル数が少ないが、参考程度に平均すると基礎資格校では平均して「専門科目」110単位、「関連科目」8単位修得となる。全員が放送大学で積み上げていて、平均して「専門科目」21単位、「関連科目」10単位を積み上げている。

○栄養学

栄養学申請者全員人が2年制の専門学校と2年制の短大専攻科（2年間）修了者である。また申請者6名のうち5名は同じ学校履歴であるので、単位修得パターンが類似している。基礎資格校では平均して「専門科目」52単位、「関連科目」8単位修得し、積み上げ単位数は平均でそれぞれ53単位（2年間）、8単位である。

2.3 「専攻外科目」の修得単位数

○人文・社会系科目

基礎資格校では多くの学校が4単位を推奨していると思われ、4単位修得者が多い。0～3単位を少ない学習者、10単位以上を多い学習者、4～9単位をその中間の学習者として分類してその割合をグラフにした（図2-3）。4～9単位修得の申請者が圧倒的に多いことがわかるが、検査技術科学（図2-3（3））で少ない学習者が目に付く。工学（土木、建築）と美術は全員少ない学習者で、それぞれの分野の特徴を象徴していると言えなくもない。少ない学習者は232名中18名（8%弱）（図2-3（10））が該当する。10単位以上の修得者も少なく、7%弱である。全ての専攻区分で最も割合が高いのは4～9単位のグループであるが、全平均は5.1単位であり、4単位修得の申請者が多いことがこの数値からもわかる。

専攻区分ごとに平均してみると、比較的多く修得しているのが看護学の6.8単位、理学療法学

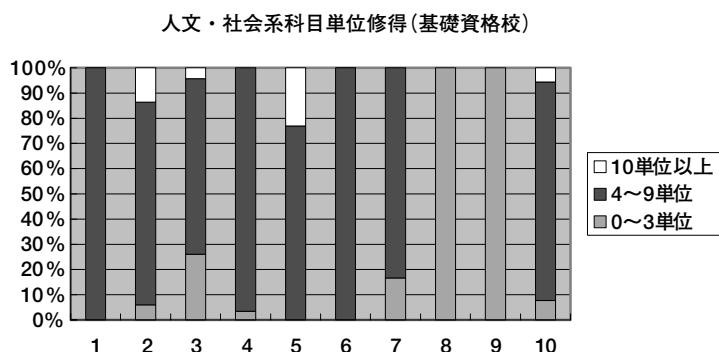


図2-3 基礎資格校での専攻分野別人文・社会系科目単位修得状況

1. 人文社会学（教育，科学技術），2. 看護学，3. 検査技術科学，4. 放射線技術科学
5. 理学療法学，6. 作業療法学，7. 栄養学，8. 工学（土木，建築），9. 美術，10. 総計

表2-2 人文・社会系科目総修得単位数別申請者数と単位積み上げ無しの申請者数

| | 0～4単位 | 5～9単位 | 10単位以上 | 積み上げ無し（その内0～4単位の者） | |
|---------|-------|-------|--------|--------------------|----|
| 看護学 | 9 | 23 | 34 | 22 | 9 |
| 検査技術科学 | 9 | 8 | 6 | 9 | 8 |
| 放射線技術科学 | 16 | 72 | 28 | 16 | 16 |
| 理学療法学 | 0 | 6 | 7 | 4 | |
| 作業療法学 | 0 | 2 | 1 | 2 | |
| 栄養学 | 1 | 3 | 2 | 3 | 1 |
| 総計 | 35 | 114 | 78 | 56 | 34 |

の7.8単位である。放射線技術科学では3単位以下の修得申請者数が4名で、115名の申請者数を考えると少ないが、4単位修得者が108名、6～8単位修得者3名、10単位以上修得者はいない。4単位と割り切っている学習者と教育機関の姿勢が見えてくる。

積み上げ後の総修得単位数を示したのが表2-2である。少ない学習者を0～4単位とすると、35名（15%強）の申請者が該当する。積み上げて10単位以上となった申請者は78名で、積み上げ前の15名から大きく伸びている。表に示す通り全く積み増さない学習者も56名（25%）いる。少ない学習者35名中34名は単位を積み上げていない。積み上げが無いから総単位数も少なくなっているのであるが、積み上げ無しの総数56名の中で34名が少ない学習者であることは、基礎資格校で人文・社会系科目の単位を多く修得しなかった者は積み上げもしていない傾向にあると言える。

平均して4.8単位程度積み上げて、積み上げ後の総修得単位数は9.9単位となる。看護学と理学療法学の平均がそれぞれ12.6単位、12.5単位と多いが、検査技術科学や放射線技術科学は8.2～8.5単位と少なめである。既述の特定の1大学経由の申請者は3単位の積み上げであり、その殆どが基礎資格校での修得が4単位なので、総計7単位となる。それを除くと放射線技術科学の申請者の平均修得単位数は9～10単位と上昇する。上に述べたように全く積み上げない申請者が25%存在することから、一部の科目等履修生が大量に修得していることが推定され、事実積み上げ単位数30単位以上の者が5名、20～29単位の者が6名、10～19単位の者が16名いる。20単位以上積み上げたものは殆ど大学入学者である。単位を積み上げない看護学の申請者22名のうち16名は専攻科経由の申請者で、1年間の専攻科での人文・社会系の単位積み上げがカリキュラム編成上困難であることがわかる。

総修得単位数が少ない学習者をあたると、検査技術科学で非修得の者が1名、2単位修得者が1名、栄養学で2単位修得者が1名、工学で非修得の者が2名である。

○数学・自然系科目

数学と自然系（物理、化学、地学、生物等）科目をひとくくりにした基礎資格校での修得状況の結果を図2-4に示す。0～3単位修得者を少ない学習者、10単位以上を多い学習者として分類した。保健衛生学関係の4専攻区分と工学では専門分野を反映して基礎資格校でも数学・自然系を多く学ぶ必要があることから、修得単位数が多いと思われるので、0～4単位の修得者を少ない学習者とした。図や説明文中*印があるのはその違いがあることを示している。少ない学習者には総計（図2-4（10））で49名（21%）の申請者が該当した。その割合の多い専攻は看

看護学（図2-4（2））、理学療法学（同（5））、栄養学（同（7））である。看護学の場合1～2単位修得者が殆どで、単位非修得の申請者もある。あわせると看護学申請者の半数近い数である。一方、検査技術科学（図2-4（3））や放射線技術科学（同（4））では10単位以上修得者が半数以上を占めている。全平均値は8.1単位になるが、看護学（3.6単位）、検査技術科学（14.2単位）、放射線技術科学（10.0単位）理学療法学（6.2単位）、栄養学（3.3単位）と、専攻区分ごとの違いが大変大きい。美術1名は非修得者で、表2-3でもわかるとおり、積み上げもしておらず、総単位数0である。

積み上げ後の結果を表2-3に示す。少ない学習者に分類される申請者は36名で、基礎資格校で単位修得の少ない申請者49名のほぼ3/4は積み上げをしていないことがわかる。全員の平均総

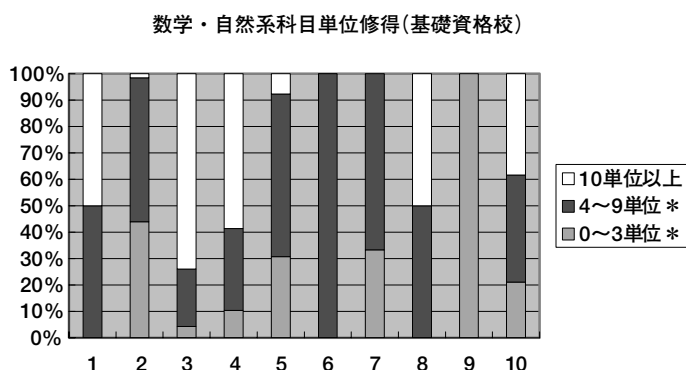


図2-4 基礎資格校での専攻分野別数学・自然系科目単位修得状況

1. 人文社会学， 2. 看護学， 3. 検査技術科学*， 4. 放射線技術科学*
 5. 理学療法学*， 6. 作業療法学*， 7. 栄養学， 8. 工学*， 9. 美術， 10. 総計
 （図中の*印は説明文で*の付いた専攻に関して0～4単位， 5～9単位と読み替えることを示している。）

表2-3 数学・自然系科目総修得単位数別申請者数と単位積み上げ無しの申請者数
 （単位の横の*印は*の付いた専攻に関して0～4単位， 5～9単位と読み替えることを示している。）

| | 0～3単位* | 4～9単位* | 10単位以上 | 積み増し無（その内0～3単位*の者） | |
|----------|--------|--------|--------|--------------------|----|
| 人文社会学 | 0 | 0 | 2 | 1 | 0 |
| 看護学 | 24 | 34 | 8 | 46 | 23 |
| 検査技術科学* | 1 | 0 | 22 | 1 | 1 |
| 放射線技術科学* | 6 | 22 | 88 | 48 | 6 |
| 理学療法学* | 3 | 6 | 4 | 6 | 2 |
| 作業療法学* | 0 | 2 | 1 | 2 | 0 |
| 栄養学 | 1 | 5 | 0 | 4 | 1 |
| 工学* | 0 | 0 | 2 | 1 | 0 |
| 美術（ゼロ） | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 総計 | 36 | 69 | 127 | 110 | 34 |

修得単位数は12単位になり、積み上げによって平均4単位増加している。積み上げ無しの申請者は総申請者数の半分近く居ることから、積み上げた人は平均8単位程度積み上げていると言えよう。分野別にみると、看護学では70%近い46名の申請者が積み上げていないので、増加単位数は1.4単位に留まる。専攻科経由の申請者37名中33名が積み上げ無しで、積み上げた申請者は4名に留まる。積み上げ単位無しの者は、科目等履修生の場合12名中9名で、大学入学した場合積み上げ無しの者は17名中4名と少なくなる。女性の申請者が多い看護学では、申請者が数学・自然系科目に関心がないか、苦手としているためと想像されるが、外から求められない限り、積極的には数学・自然系の科目の学習をしないためにこのような結果となったのではないと思われる。検査技術科学や放射線技術科学の殆どを占める科目等履修生は数学・自然系科目を多く積み上げており、増加数はそれぞれ9.3単位と8.2単位である。ただし、放射線技術科学では48名の積み上げ無しの申請者（すべて既述の特定の1大学での科目等履修生）がいるので、それを除いて一般的な科目等履修生の単位積み上げ得状況を見積もった値である。看護学と並んで積み上げをしない申請者の割合が高いのは、理学療法学と栄養学である。

工学の2名については当然のことながら数学・自然系の修得単位は多い（積み上げで9単位から22単位へ増加）。

総修得単位数が少ない学習者をあたると、非修得者は看護学2名、検査技術科学1名、放射線技術科学1名、美術1名、1単位は看護学6名である。2単位となると16名で、そのうち看護学が14名である。

○国語、外国語科目

国語の単位修得者は7名で、基礎資格校での修得者はそのうち2名である。

外国語科目の単位の基礎資格校での修得状況を図2-5に示す。修得単位が0～3単位を少ない学習者、10単位以上を多い学習者とした。非修得者1名を含めて少ない学習者は22名（10%弱）で、殆どの者は4単位以上修得している。10単位以上は3名と少ない。平均すると5.3単位である。少ない学習者の割合が多いのは、看護学（平均4.7単位）、理学療法学（同4.5単位）、作業療法学（同3単位）である。6名中5名が同じ学習歴である栄養学ではたまたまと思われるが全

外国語科目単位修得(基礎資格校)

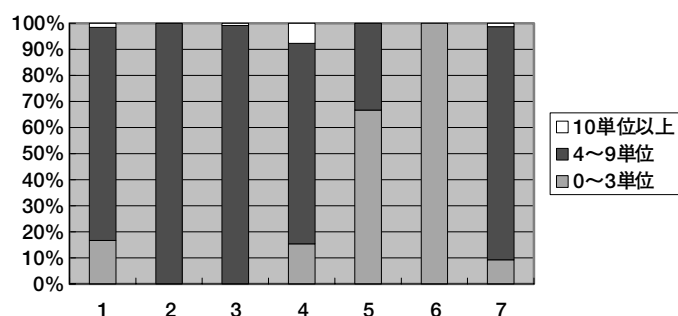


図2-5 基礎資格校での専攻分野別外国語科目単位修得状況

1. 看護学, 2. 検査技術科学, 3. 放射線技術科学, 4. 理学療法学
5. 作業療法学, 6. 栄養学, 7. 総計

表2-4 外国語科目総修得単位数別申請者数と単位積み上げ無しの申請者数

| | 1～4単位 | 5～9単位 | 10単位以上 | 積み上げ無（その内1～4単位の者） | |
|---------|-------|-------|--------|-------------------|----|
| 看護学 | 34 | 22 | 10 | 44 | 34 |
| 検査技術科学 | 4 | 13 | 6 | 8 | 4 |
| 放射線技術科学 | 11 | 63 | 42 | 30 | 11 |
| 理学療法学 | 3 | 8 | 2 | 4 | 1 |
| 作業療法学 | 2 | 1 | 0 | 3 | 2 |
| 栄養学 | 5 | 1 | 0 | 2 | 2 |
| 総計 | 59 | 108 | 60 | 91 | 54 |

員少ない分類に入っている。放射線技術科学の平均値は5.9単位で最高となっている。

積み上げ後の結果を表2-4に示す。平均して2.3単位積み上げ、申請時の平均は7.5単位となる。1～4単位修得を少ない学習者とする59名（26%）である。10単位以上修得した者は3名から60名に増加している。その一方で、全く積み増さない人も91名（39%）いる。中でも看護学が44名（看護学申請者の67%）と多い。専攻科経由37名中では30名（81%）が該当するが、科目等履修生12名中7名、大学入学者17名中6名とその割合が少なくなる。既述の特定の1大学経由の場合、外国語の履修が含まれるので、放射線技術科学の専攻において積み上げ無しの30名は、専攻科経由全員の8名と当該特定の1大学以外で学習した科目等履修生29名中14名、大学入学者29名中8名に分けられ、看護学と類似の学習歴依存の傾向がみられる。人文・社会系科目の場合と同様に、積み上げ無しの者の半数以上が少ない学習者である。

総修得単位数が少ない学習者をあたと、機構の定める要件「1単位の修得」は1名（作業療法学）で、2単位の修得者は教育学1名、看護学1名、作業療法学1名、栄養学2名、工学1名の計6名となる。

○情報・コンピューター系科目

情報・コンピューター系科目の修得単位は少ないので、上記3種類の科目のように分類しても意味がない。そこで情報・コンピューター系科目の単位修得経過を（1）修得単位が無い者、（2）積み上げ単位のための者、（3）基礎資格校でのみ修得した者、（4）両方で単位を修得した者

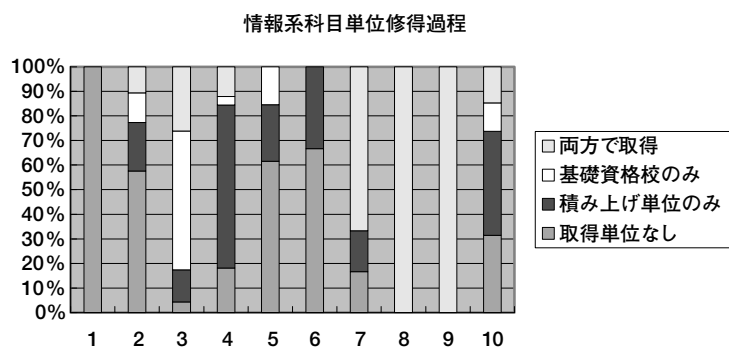


図2-6 専攻分野別情報系科目の単位修得過程

1. 人文社会学, 2. 看護学, 3. 検査技術科学, 4. 放射線技術科学, 5. 理学療法学
6. 作業療法学, 7. 栄養学, 8. 工学, 9. 美術, 10. 総計

に分けて、その割合を図2-6に示す。参考のために1名の申請者の専攻区分も合わせて記した。申請者全体で73名（32％）の者が申請時においても全く情報関連の科目を修得していない。看護学（図2-6（2））と理学療法学（同（5））の分野では半数以上に達する。（1）と（2）に分類されたものを足し合わせた割合が、基礎資格校でこの分野の学習をしなかった者の割合を表す。基礎資格校で修得しなかった者は171名（74％）で、5割以上を示す分野は、上記の2分野に加えて放射線技術科学（図2-6（4））（98名、85％）である。一方、検査技術科学（図2-6（3））の場合、基礎資格校で19名（83％）が単位を修得しており、総平均27％に比べて異常に高い。この分野の特徴と思われる。総計（図2-6（10））では積み上げをした者は98名（42％）で、両方で修得した者は34名（15％）である。

履修者が少ないことを勘案して履修者だけで総修得単位数の平均を求めると、1.5単位（看護学）、2.6単位（放射線技術科学）、2.8単位（理学療法学）、3.7単位（栄養学）である。

情報関係の教育の充実が図られたのが最近であるとする、若い申請者と年配の申請者での違いが想定される。看護学申請者の場合、比較的若いと判断される専攻科経由の申請者37名について調べると、情報・コンピューター系の科目を履修した者が25名と7割近くいる。一方、年配層が含まれると思われる残りの申請者29名中で履修した者は3名と1割程度であり、最近では情報・コンピューター系の教育が充実している様子がわかる。文科省の教育改革への取り組みに関するウェブサイトを見ると、情報処理教育を必須化した大学は平成8年度346校から平成13年度で521校と増加している。栄養学申請者の情報・コンピューター系修得単位が3.7単位と多いが、これも全員が若いと思われる2年制の専攻科経由の申請者である。

既に職についている申請者の多い放射線技術科学の場合、既述の特定の1大学経由の者50名は全て2単位履修しているので、基礎資格校での単位非修得者98名に比べて、申請時までに情報・コンピューター系を全く学ばなかった者は21名と少なくなっている。その内訳は科目等履修生11名（29名中）と専攻科、大学入学10名（37名中）である。その一方で放送大学で4～6単位と多く修得している者もいる。

10単位以上修得している者は検査技術科学1名と工学の2名である。

○保健体育科目

基礎資格校での修得や積み上げ等は専攻区分で大きく変わることがないので、全員について基礎資格校での修得状況を図2-7に示す。単位非修得者は8名（3.5％）いる。大多数（78％）が

保健体育科目単位数別修得者分布（基礎資格校）

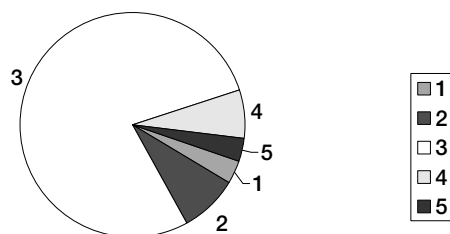


図2-7 保健体育科目単位数別修得者別分布（基礎資格校）

1. 0単位, 2. 1単位, 3. 2単位, 4. 3単位, 5. 4単位以上

2単位修得者である。単位を積み上げた者は少なく20%弱である。総平均値は2.5単位である。

○「その他」の科目

前に述べたようにこの分類にはいろいろな科目が入るので、結果のおおよそを示す程度にとどめる。修得単位数の平均値等にはあまり意味がないので記さない。

図2-8は専攻区分ごとの「その他」の科目の修得過程別の割合を示す。(1) 全く単位を修得しなかった者、(2) 積み上げ単位だけの者、(3) 基礎資格校でのみ修得した者、(4) 両方で修得した者に分類した。非修得の者は総計(図2-8(7))で4割近くおり、放射線技術科学(同(3))では5割を超えている。(1)と(2)に分類された者の和が、基礎資格校でそのような学習をしなかった者を示すが、総計で86%程度の申請者が修得していないことになる。最も少ない割合を示す理学療法学(図2-8(4))でも4割を越えている。(2)と(4)に分類された者の和が積み上げを行った者で、全体で59%、一番多い割合は看護学(図2-8(1))で76%である。

「その他」の科目の単位修得過程

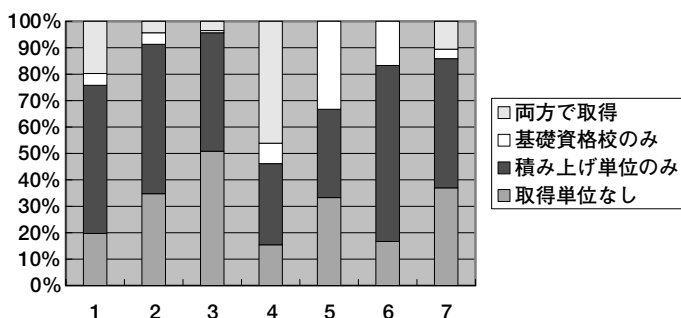


図2-8 「その他」の科目の単位修得過程

1. 看護学, 2. 検査技術科学, 3. 放射線技術科学, 4. 理学療法学
5. 作業療法学, 6. 栄養学, 7. 総計

「その他」の科目の積み上げ単位数と学習歴

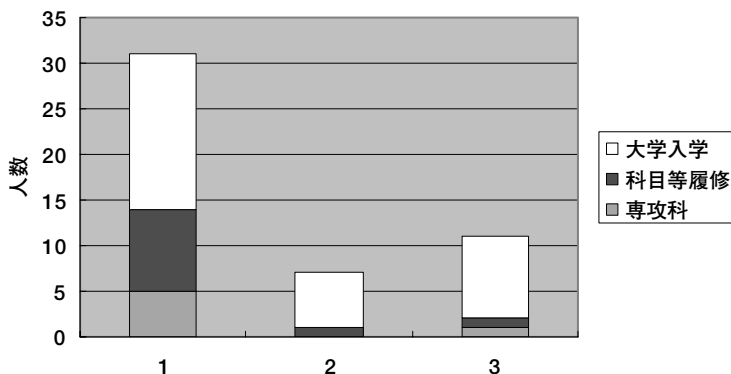


図2-9 「その他」の科目の積み上げ単位数の多い申請者の学習歴

1. 10～19単位, 2. 20～29単位, 3. 30単位以上

放射線技術科学（図2-8（3））の場合、既述の特定の1大学経由のカリキュラムには「その他」の科目がない。また、専攻科経由の8名も専門に特化した教育課程のためと思われるが、全員「その他」の科目を積み上げた者はいない（0名／8名）。積み上げた者の割合は放送大学等での科目等履修生の場合27名／33名、大学入学者全員の場合29名／29名と順に増加している。看護学の場合も、割合の絶対値は異なるが、専攻科経由、放送大学等、大学入学と変るにつれて類似した増加の傾向（25名／37名、10名／12名、15名／17名）が見られる。

図2-9は、「その他」の科目の積み上げ単位数の多い申請者の人数を学習歴別に分類したものである。50、60単位と積み上げる学習者がいるために、30単位以上積み上げた者の数は初めの2つの単位数区分の減少から期待されるようには減少していない。積み上げ単位が20単位以上と多い区分では大学入学者（卒業も含む。）の割合が多いことがわかる。

2.4 「一般・教養科目」の総修得単位数

前節で分類した人文・社会系科目、数学・自然系科目、国語、外国語科目、情報・コンピューター系科目、保健体育科目の6項目を「一般・教養科目」として、基礎資格校で修得した総単位数を専攻区分ごとにまとめたのが表2-5である。「その他」の科目は、前述したように宗教関係のように学校固有でかつ多数単位を修得する場合があるので除いた。総単位数が10単位に満たない申請者が2名いる。15単位以下の者は45名と全体の20%に近い。その多くが看護学である。21単位以上修得した者はほぼ半数で、平均すると図2-10（a）に示すように21単位である。

図2-10（a）は、人文・社会系科目、数学・自然系科目、国語・外国語科目、情報・コンピューター系科目、保健体育科目の基礎資格校での平均修得単位を棒グラフで積み上げたものを、6つの専攻区分について示したものである。人文・社会系科目の修得単位には専攻区分によって相対的には大きな違いはないが、2.3節で述べたとおり、数学・自然系と語学系の値には専攻区分による違いが大きい。総単位数は総平均（図2-10（a）（7））で21単位程度となるが、少な

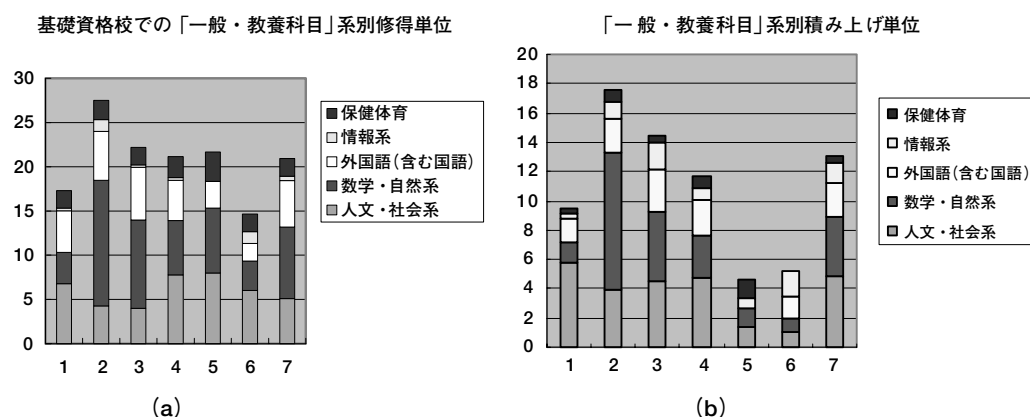


図2-10 (a)「一般・教養科目」系別修得単位（基礎資格校）、(b)同 積み上げ単位

1. 看護学, 2. 検査技術科学, 3. 放射線技術科学, 4. 理学療法学
5. 作業療法学, 6. 栄養学, 7. 総計

表2-5 基礎資格校で修得した「一般・教養科目」総単位数と修得者数

| | 0～9単位 | 10～15単位 | 16～20単位 | 21～30単位 | 31単位以上 |
|---------|-------|---------|---------|---------|--------|
| 人文社会学 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 |
| 看護学 | 0 | 31 | 24 | 6 | 5 |
| 検査技術科学 | 1 | 1 | 3 | 12 | 6 |
| 放射線技術科学 | 0 | 6 | 33 | 72 | 5 |
| 理学療法学 | 0 | 2 | 6 | 3 | 2 |
| 作業療法学 | 0 | 0 | 1 | 2 | 0 |
| 栄養学 | 1 | 1 | 4 | 0 | 0 |
| 工学 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 |
| 美術 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 総計 | 2 | 43 | 72 | 97 | 18 |

いのが看護学（同（1））と栄養学（同（6））で、それぞれ平均17.3単位、14.7単位である。その理由は数学・自然系科目の修得単位数が少ないことにある。栄養学（図2-10（a）（6））ではさらに外国語科目の修得単位が少ない。検査技術科学（図2-10（a）（2））は27.5単位でいちばん多い。数学・自然系の専門の基礎となる科目が多いためである。

図2-10（b）は、積み上げ分を示したものである。積み上げ部分は個人差が大きいため、平均の値にはあまり意味がないが、専攻区分の特徴を読み取れる。特に少ない理学・作業療法学（図2-10（b）（5,6））を除くと、人文・社会系の単位積み上げには大きな差がない。違いが大きいのが数学・自然系科目の積み上げで、情報・コンピューター系科目や外国語科目の単位にもある程度の違いが見られる。（a）と（b）を足し合わせると、栄養学の20単位から、検査技術科学の45単位と倍以上の違いがある。

個々の申請者の積み上げの状況を表2-6に示す。総計を見ると、5単位以下の者がかなり（22％）いると同時に、20単位以上の者も少なくない。6～10単位程度を積み上げた者が多いことがわ

表2-6 「一般・教養科目」の積み上げ単位数別修得者数

| | 0～5単位 | 6～10単位 | 11～20単位 | 21単位以上 |
|---------|-------|--------|---------|--------|
| 人文社会学 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 看護学 | 31 | 18 | 8 | 9 |
| うち専攻科修了 | (23) | (10) | (2) | (2) |
| 科目等履修 | (5) | (5) | (2) | (0) |
| 大学入学 | (3) | (3) | (4) | (7) |
| 検査技術科学 | 2 | 4 | 12 | 5 |
| 放射線技術科学 | 6 | 58 | 32 | 20 |
| 理学療法学 | 5 | 4 | 2 | 2 |
| 作業療法学 | 2 | 1 | 0 | 0 |
| 栄養学 | 3 | 3 | 0 | 0 |
| 工学 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| 美術 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 総計 | 51 | 88 | 56 | 37 |

表2-7 「一般・教養科目」の総単位数（括弧内「その他」科目を含む総単位数）別修得者数

| | 0～20単位 | 21～30単位 | 31単位以上 |
|---------|---------|---------|-----------|
| 人文社会学 | 0 | 1 (1) | 1 (1) |
| 看護学 | 24 (15) | 25 (17) | 17 (34) |
| 検査技術科学 | | 3 (2) | 20 (21) |
| 放射線技術科学 | 2 (2) | 29 (20) | 85 (94) |
| 理学療法学 | 2 | 4 (5) | 7 (8) |
| 作業療法学 | 1 (1) | 1 (1) | 1 (1) |
| 栄養学 | 2 | 4 (6) | 0 |
| 工学 | | 1 | 1 (2) |
| 美術 | | 1 | (1) |
| 総計 | 31 (18) | 69 (52) | 132 (162) |

かる。この6～10単位の区分には既述の特定の1大学だけの積み上げで9単位積み上げた46名が含まれるので、これを除くと42名となり、総計の分布のピークは弱くなる。

単位数区分ごとの人数の分布が学習歴による可能性があるので、表では基礎資格取得後の学習歴がいろいろ異なる者を含む看護学についてさらに詳しく調べた結果を載せた。表より、専攻科経由の者が科目等履修生、大学入学生に比べて積み上げが少ないことがわかる（全員が専攻科経由の栄養学も同様である。）。科目等履修の者でも類似した傾向にあるが、大学入学者となると積み上げ単位数が多い区分で多くなる傾向が見られる。放射線技術科学の場合、当該特定の1大学経由を除いた科目等履修生の多くが11単位以上の区分に入る。大学入学者の場合、看護学の場合と同様に積み上げ単位数が多いほど多数となり、21単位以上の積み上げ区分の20名中15名を占め、総計でも37名中29名を占めている。

積み上げた結果の総単位数を単位数別に記したのが、表2-7である。括弧内は「その他」の科目の修得単位数を加えた場合である。20単位以下の者が31名で、基礎資格校だけの場合の117名（表2-5）から大幅に減少しているとはいえ13%を占めている。やはり看護学の申請者の割合が大きい。少ない場合を挙げると9単位1名（栄養学）、15単位以下が16名（全員看護学でそのうち専攻科経由が14名）である。

基礎資格校や積み増しで修得した「その他」の科目（他専門や宗教科目）を加える、すなわち他の専門も含めて専門以外の分野を幅広く学習した目安で見直すと、20単位以下は18名に減少し、8%程になる。ここでも看護学の占める割合が大きい。15単位以下は9名で、一番少ないのが、積み増し無しの12単位の2名である。

3 まとめと考察

平成13年度に専門学校を基礎資格校として申請した232名の単位修得状況を「専攻外科目」を中心に調査した。サンプル数が足りない専攻区分が多かったが、専攻区分ごと、学習歴ごとの特徴をある程度示す結果が得られた。結果を簡単にまとめると次のとおりである。

- 1) 濱中⁶⁾が指摘したように、専修学校を基礎資格とする申請者は、看護学と保健衛生学4分野が殆どで、栄養学が僅かに加わる程度である。

2) 基礎資格取得後の学習歴は専攻区分ごとに特徴があり⁶⁾、今回の調査対象の中では、看護学における申請者の学習歴が一番多様な分布を示していた。特定の1大学で単位積み上げを行った者を除くと全体として専攻科経由以外の学習者にとって放送大学の役割は大きいといえる。

3) 基礎資格校での単位修得

a) 専門科目は予想通り多数修得している。3年制での学習についてみると、看護学の平均68単位から放射線技術科学、理学療法学の100を超える単位数まで分布している。

b) 関連科目は専門の周辺の科目として、専門と他の専門との橋渡しの役目を持つ科目であるが、看護学の者が飛びぬけて多く修得し平均21単位ほどになるのに対して、保健衛生分野では少なく、放射線技術科学の平均1単位以下から、理学療法学の平均6単位（3名の申請者の作業療法学の平均8単位を除く。）である。

関連科目を全く修得していない申請者が全体の4割を占めているが、その8割が放射線技術科学の申請者である。

c) 「一般・教養科目」の修得単位の全平均は21単位ほどである。専攻区分によって14～15単位から、27～28単位までに分布している。少ない修得を示す専攻区分は数学・自然系科目の修得が少ない看護学と栄養学で、栄養学の場合、さらに外国語科目の修得が少ないために平均値が低くなっている。逆に保健衛生学系では、技術を支える数学・自然科学系科目（基礎専門と位置づけられている。）の修得単位が多く、総数を押し上げている。

個々の申請者でみると、9単位以下が2名（6単位と9単位）、15単位以下は総計45名（19.5%）である。看護学では半数近い申請者がこれに属する。

d) 「一般・教養科目」の個々の科目の少ない単位修得者についてみると、人文・社会系科目の取得単位数が3単位以下の者が18名（8%弱）、数学・自然系科目の取得単位数が3ないし4単位以下の者が49名（21%）、外国語科目の取得単位数が3単位以下の者が22名（10%弱）、情報・コンピューター系科目の場合は単位非修得者170名（73%）、保健・体育科目では修得単位数1単位以下の者が25名（11%）となっている。

4) 積み上げ単位

a) 専門、関連科目の単位積み上げは、基礎資格取得後の学習歴に依存する。全体の4分の1近い数の者が特定の1大学（放射線技術科学）で単位修得という特異な学習歴であるため、分析の際にそのことを考慮しなければならなかった。専攻科での修得単位は「専門科目」が多くなり、放送大学等での学習においては、「関連科目」の積み上げが多くなる傾向にあった。

b) 「一般・教養科目」の積み上げについては、学習歴や個人による違いが大きく、平均値については余り意味を持たない。0～5単位と少ない単位を積み上げた者は51名（22%）である。そのうち専攻科経由の23名を含む看護学の31名が大きな割合を占めている。11単位以上積み上げている者は93名40%と、4割に達している。半数近い申請者が基礎資格取得後に多くの「一般・教養科目」を学習しているといえる。該特定の1大学経由の者と専攻科経由の多くがこれには含まれないので、多く積み上げている者の殆どが放送大学を主とする大学入学者や同大学の科目等履修生であることから、放送大学の寄与が大きいことがわかる（図2-1 (b)）。

5) 合計単位数

- a) 「一般・教養科目」について合計した結果、20単位以下の単位取得者は31名（13%、最低9単位）である。30単位以上取得した者は130名で半数以上となる。
- b) 「その他」の科目を加えると20単位以下の者は18名（7.8%、最低の修得単位数12単位）に減少し、30単位以上の修得者は162名（70%）に増加する。

今回の調査の対象者は、看護学、保健衛生学等の職業資格と特化した専攻区分への申請者が殆どであるが、以下結論的なことを述べる。

「一般・教養科目」を専門学校でもある程度（平均21単位）修得している。積み上げ単位を含めると20単位以下の者は13%となり、「その他」科目も含めると20単位以下の物は8%以下となる。積み上げによって大きく増加していることがわかる。特に放送大学等での科目等履修は大変有効であることがわかる。専門学校修了生が含まれていない濱中の調査結果でも⁷⁾、含まれている調査結果でも⁸⁾、満足度の理由のひとつに「幅広い教養が得られた」と回答する者の割合が高いことは、このような単位修得法と関係しているものと思われる。また、機構への学位授与申請の動機に「幅広い教養を得たい」を挙げる者も多い。

機構の定める一般・教養教育と関連する基本基準は『『関連科目』と『専攻外科目』との合計修得単位数が24単位以上であること』であり、今回の調査対象者の専攻区分では関連科目を最低4単位修得しなければならないとする専攻基準を考慮すると、この基本基準は「専攻外科目」を20単位程度修得することを結果的に求めていることになるかと推定される。基本基準を満たすように、「関連科目」を沢山修得してもよいので、理屈の上では外国語1単位だけでもよい。多くの者は20単位以上修得して、推定された要請を満たしているが、専門学校ごとの科目の提供と卒業要件の違い、学習歴の違い、本人の意識の違いによって、修得単位が20単位以下の者がある程度（主として看護学）いることがわかる。

今回、「専攻外科目」の中身を詳細に調べた結果、専門区分ごとに、学習歴ごとに、また個々の問題として専門学校の指針、本人の意識の違いによって、人文社会系、数学・自然系、語学系、情報・コンピューター系の単位修得にある程度の違いがあることがわかった。

今回20単位という目安で考察したが、20という数値の意味づけは難しい。国内、国外における学士の授与で一般・教養科目の修得要件がどのように扱われているか、幾つの場合を以下に述べる。

- 1) 大学設置基準の大綱化後の大学における調査はあまりないと思われる。機構の報告書²⁾では、国立大学では一般教育関連修得単位の卒業要件は最低20単位最高82単位で平均41単位である。
- 2) 専攻科を含む高等専門学校（主として工学系）や短期大学についての系統的な調査は筆者の知る限り残念ながら無い。
- 3) JABEEの工業高等専門学校本科の4、5学年と専攻科2年間の教育プログラムに対する認定作業においては、プログラム1800時間の内、人文社会系（含む語学）で250時間、数学、自然、情報系で250時間を求めている（JABEEのウェブサイトより）。総数1800時間を124単位として換算すると、ふたつをあわせた500時間は34.4単位に対応する。
- 4) 言語聴覚士の国家試験においては、厚生労働大臣が履修指定する科目として、人文科

学のうち2科目，社会科学のうち2科目，自然科学のうち2科目（統計学を含む。），外国語，保健体育が挙げられている（官報第3682号，平成15年）。1科目を2単位とすると16単位となる。

- 5) 森によるRegents大学（現Excelsior大学）での学位取得要件調査の結果⁹⁾を見ると，本稿で「一般・教養科目」の修得単位数が少ない申請者が多いとされた看護学科学学士の場合，120の総修得単位の中でジェネラルエデュケーション領域で72単位以上の修得，そのうち自然科学あるいは数学が15単位以上の修得が要件となっている。一方，自然科学系のテクノロジー科学学士の場合は，数学・自然科学を含めた人文科学領域で60単位以上，そのうち人文学，社会学，歴史等で24単位以上修得することが要件となっている。
- 6) 文部科学省のウェブサイト¹⁰⁾の「看護学教育の在り方に関する検討会」報告（平成16年3月26日）に，全国の4年制看護学系学部を持つ大学における教養科目修得要件の調査結果が与えられている（表3-1）。これをみると，要件は平均で30単位程度である。20単位未満を要件とする大学は非常に少ない（5%）。
- 7) 韓国における独学による学位取得制度においては¹¹⁾，23科目の全試験を124単位相当とすると，教養課程5科目の試験は27単位に相当する。教養課程試験免除条件は，1年間の大学在学での35単位以上の修得である。これは日本の1年間の在学での平均修得要件の31単位に相当する。
- 8) 同じ韓国における「学点銀行制」に置いて，学士の学位取得のために求められる単位数は，教養30，専門60，選択50で総計140である。総数を日本での要件124単位にすると教養科目の必要単位数は27単位となる¹²⁾。

平成13年度の学士の学位授与申請者2276名の内，専門学校修了を基礎資格とする232名について，かつての一般・教養教育科目に相当すると思われる科目の単位修得状況をはじめて科目分類を行って調べたが，得られた結果を，他の基礎資格の申請者に対する調査の結果，および4年制大学での学習と比較することによって，専門学校を経た学習者の特徴をつかむことが最終目的である。今回の調査で多数の申請者のあった専攻区分の専攻は高等専門学校にないで，比較が可能なのは短期大学と大学だけである。看護学の場合には，短期大学卒の申請者に対する調査結果が得られれば，上記の大学の調査結果を含めて比較することが可能である。14年度以降の調査と合わせて今後の課題である。

表3-1 4年制大学看護系学部での卒業要件。修得総単位数と教養科目の単位数ごとの大学数

| 教養卒業要件 | 校数 | 16～18単位 | 20～24単位 | 25～29単位 | 30～34単位 | 35～39単位 | 40～42単位 | その他 |
|-----------|----|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-----|
| (校数) | 60 | 3 | 14 | 17 | 16 | 5 | 2 | 3 |
| 124～126単位 | 21 | 1 | 7 | 6 | 4 | 2 | | 1 |
| 127～129単位 | 17 | 2 | 3 | 5 | 5 | 2 | | |
| 130～133単位 | 11 | | 1 | 3 | 4 | | 2 | 1 |
| 134～137単位 | 8 | | 2 | 2 | 3 | 1 | | |
| 139～148単位 | 2 | | 1 | 1 | | | | |
| その他 | 1 | | | | | | | 1 |

日本看護系大学協議会2002調べ

謝辞

下記＜注＞4で述べたように、今回の調査の対象となった申請者のリストなしには調査は進められなかった。リストの提供を頂いた当機構の濱中義隆助教授に心から感謝申し上げます。

＜注＞

- 1 濱中 義隆「大学評価・学位授与機構の学位審査システム－単位累積型学士学位の質の保証について－」,『IDE・現代の高等教育』,平成15年5月号 (No.449), pp.47-52。
- 2 大学評価・学位授与機構「国立大学における教養教育の取組の現状－実情調査報告書－」,平成13年9月, P.29。
- 3 韓 民『現代日本の専門学校』, 玉川大学出版部 (平成8年)。
- 4 平成13年度2276名の申請者の中から専門学校を基礎資格とする申請者232名を抜き出したリストを大学評価・学位授与機構学位審査研究部の濱中 義隆助教授より頂いた。そのリストには、基礎資格校や単位積み上げた教育機関名等も合わせて記されている。本稿で述べる学習歴は濱中の分類に従った。
- 5 有本 章編『大学のカリキュラム改革』, 玉川大学出版部 (平成15年)。
- 6 濱中 義隆「学士学位取得者に対する「1年後・5年後調査」の分析 (3)－専攻分野「保健衛生学」を中心に－」,『学位研究』, No.17, pp.155-182 (平成15年)。
- 7 濱中 義隆「学士学位取得者の現状と意識 —1年後・5年後調査の分析 (2) —」,『学位研究』, No.15, pp.77-94 (平成13年)。
- 8 濱中 義隆 (平成15年, 私信)。
- 9 森 利枝「リージェント大学における評価システム —学習とクレジット評価を中心に—」,『学位研究』, No.10, pp.105-129 (平成11年)。
- 10 URL : http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/018/15/toushin/04032601.htm。
- 11 森 利枝「韓国における独学による学位取得制度について」,『学位研究』, No.15, pp.77-94 (平成13年)。
- 12 「内外教育」(時事通信社, 平成15年12月12日発行) p.2。

Results of Surveys of Credit Accumulation
for General Education Courses by Applicants in FY2001
who have Completed Their Studies at Special Training Colleges

YAGI Katsumichi*

The awarding of bachelor degrees by the National Institution of Academic Degrees and University Evaluation (NIAD-UE) to applicants who have completed their studies at special training colleges was started in FY1999 in addition to applicants who have completed studies at already qualified colleges, i.e., junior colleges and colleges of technology. Special training colleges are more oriented, in curriculum, to a specific field so that learners who have completed their studies are easily able to pass state examinations for state licenses. Therefore, the accumulation of credits for general education at such special training colleges may be more limited. Since 1999, no survey of the number of such general education credits has been carried out, nor on those earned after the completion of studies at these colleges.

In the present work, we have classified all of the credits accumulated by 232 applicants in FY2001 into those for specialized subjects, semi-specialized subject courses and for general education courses. The last area was further classified into humanities and sociology, mathematics and natural sciences, foreign languages, health and gymnastics, basic information science and technology, and 'others' including courses of subjects unrelated to the student's field of study. The classification is similar to that often used at 4-year universities.

Most of the applicants were in nursing and health sciences such as medical technology, radiological technology, physical therapy and occupational therapy while a few were in nutrition and 5 were in 5 other different disciplines. Applicants who have completed their studies at these special training colleges were able to acquire additional credits either as students at NIAD-UE-recognized advanced programs at junior colleges (applicants mainly in nursing and nutrition for the present survey), as non-matriculated credit-based students at universities (nursing, health sciences) or as students at universities (nursing, health sciences).

Our results showed that the average number of credits accumulated for general education (excluding fields under "others") at special training colleges depends on the discipline. It is low for nursing (17.5 units) and nutrition (15 units) and high for medical technology (27.5 units), while the overall average for all of the disciplines is 21 units. Differences arose mainly due to the number of credits for mathematical science and foreign languages. Two applicants earned credits of less than 9 units and 45

* Professor, Faculty for the Assessment and Research of Degrees, National Institution for Academic Degrees and University Evaluation

applicants (19.5%) earned less than 15 units.

The acquisition of credits in general education courses after the completion of studies at special training college was found to depend on the applicant and the applicant's learning career, so that although the average number of credit units is of reference, it is not an overall indicator. Fifty-one applicants (22%, mostly graduates of advanced programs of junior colleges) earned credits of less than 5 units. Ninety-three applicants (40%) earned more than 11 units in which the Air University courses played an indispensable role.

For the total number of combined credits earned before and after completion of studies at special training colleges, 31 applicants (13%) earned credits of less than 20 units (the lowest of which was 9 units) while more than half, or 130 applicants, earned credits of more than 30 units.

The present survey has shown that the characteristics of credit accumulation for general education courses by applicants who have completed studies at special training colleges depend on the discipline and the acquisition methods. A more detailed study has been presented in the manuscript. Also, continuing surveys of applicants in recent fiscal years as well as of other learning institutions are to be carried out.